スタジアム横バル街

スタジアム横バル街へようこそ!!

関内はその昔、開港直後より
日本の最新文化の発信地のひとつでした。

BASEGATE 横浜関内には、バラエティ豊かな飲食店と、
アミューズメント、そして”ハマの本屋”有隣堂があります。

今回の「スタバル選書」企画では、お酒のお供にぴったりの本を、お店のマスターたちに人生遍歴や趣味、モットーなどをインタビューしながらセレクトしました。

ぜひ、お手に取ってご覧ください。

目標は全店参加＆シリーズ化!!
お客さまのご感想もどしどしお寄せください。

有隣堂　店売事業部　イベントチーム　名智理

有隣堂 BOOK WORK LIFE

お酒と会話、ときどき本。

店長の野坂さんは、歴史系のコミックや、民俗学がからむようなミステリ系がお好きとのこと。
好きなものは好き! 自分に正直に生きたいと語るお人柄からは、お店にかけるまっすぐな情熱を感じました。元気いっぱいの笑顔が素敵です。
（撮影当日はご不在で代理の方が…笑）

『宗像教授セレクション
　隠された神話』（コミック）
『民俗のふるさと』（文庫）

スタジアムサイドテラス 2F　なんちく 南九州畜産 卸売市場

店長の亀井さんは自己啓発の本をよく読まれるそうですが、オールナイトニッポンなどのラジオを仕込みの時間などに聞くのが楽しみだそう。とくにオードリーの若林さんが好きで直木賞候補『青天』も読んだそうです。またプライベートで行ったペルーでの経験が人生の転機になったとも話してくださいました。
『目に見えない世界の旅』
『秘伝 オールナイトニッポン
　奇跡のオンエアはなぜ生まれたか』

スタジアムサイドテラス 2F　その日暮らし Tachinomi & Sake

一角の責任者の木下さん。
元々なにかものづくりや手作業でやることが得意で好きだったこと、食べることが好きなこともあり飲食の仕事に就かれたそう。
普段本はあまり読まないけれど、旅やモノづくりの特集の雑誌はお好きだとか。選書には『おじさん酒場』をぜひ、とのことでした。
『おじさん酒場 増補新版』（文庫）
「職人の手 -16 PROFESSIONAL STORIES」

一角　ザ レガシー 1F

店長の黒坂さんは普段はお仕事が忙しく本を読む時間がなかなか無いそうですが学生時代は社会学を通じて、各地のお祭りをフィールドワークしたこともあるのだとか。
地元は北海道の白老町で牛のお祭りがあるそうですよ。美味しいビールの飲み方や歴史にも興味あり。

『日本の祭り解剖図鑑 最新版』
『横濱麦酒物語』

日本の祭り解剖図鑑 お祭り本舗　スタジアムサイドテラス 1F

斉藤さんと小山さんにお話を伺いました。食べるのが好き！ピザとパスタが大好き！ということでメニューにも愛情たっぷり。専門的な調理法の本や、イタリアを中心にした旅の本などもお好きだそう。スタバルのお店同士もっとたくさん交流できたら、と仰っていました。
『イタリア食紀行 - 南北1200
　キロの農山漁村と郷土料理 - 』
『ローカル鉄道と路線バスでめぐる
　果てしなきイタリア旅』

スタジアムサイドテラス 1F　コムギlab Pizza and Pasta

オーナーの平永さんはかつては港湾関係のお仕事をしていて船乗りさんでした。シェフとの運命的な出会いを経て都内で開業。関内は2店舗目となります。敢えて日本人向けにアレンジしない、北インドの現地の味を大事にされているとか。普段はミステリをよく読み、アクティブに体を動かすのもお好きだそうです。
『インドの台所』
『どくとるマンボウ航海記
　増補新版』（文庫）

スタジアムサイドテラス 1F　DESI TANDOOR B.B.Q

店舗責任者の菅沼さん。フレンチとイタリアンなど10年以上飲食でお仕事をされてきて、お店のすすめはとくに南イタリアのワインやお料理だそうです。野球が大好きでお客さんとも試合の日は一緒に盛り上がるんだそうです。
石川町や野毛の系列店の常連さんもここ関内のお店に通ってくださるとのこと。
『ワインの授業 イタリア編』
『サルデーニャの蜜蜂』（文庫）

Bar Italiano OiNOS オイノス バル　スタジアムサイドテラス 2F

店長の中村さんは普段ミステリをよく読むそう。IT関係のお仕事からの転身で、数学や『孤独のグルメ』ラーメンの食べ歩きもお好きだそうです。その他趣味として海釣りを愛し、湘南や逗子、葉山の方から釣り船に乗り込んで釣ったとれたての魚をさばいて和食に調理するのがお好きなのだとか。
『潮風キッチン』（文庫）
『ぶつり学入門 物理学の
　視点で釣りを科学する』

Buono! pasta　ザ レガシー 1F

スタジアム横バル街ブックフェア

BASEGATE YOKOHAMA KANNAI

参加店募集中

Book Select by 有隣堂 BOOK WORK LIFE